

令和7年度 学校経営方針

1 学校教育に求められるもの

1 国（文部科学省の方針） 第4期教育振興基本計画(R5～9年度) (R5.6.16)

(1) 2つのコンセプト

①持続可能な社会の 創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な 社会を維持・発展させていく人材を育てる
- ・主体性、リーダーシップ、創造力、課題 設定・解決能力、論理的思考力、表現力、 チームワークなどを備えた人材の育成

②日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

- ・多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- ・幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、 自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

※日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められている。

※教育に関連する ウェルビーイングの要素

- ・自己肯定感 ・自己実現 ・心身の健康 ・安全安心な環境 ・幸福感 ・多様性への理解
- ・協働性 ・利他性 ・社会貢献意識 ・サポートを受けられる環境 ・学校や地域でのつながり

(2) 5つの基本的な方針

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

(3) 16の教育政策の目標

- ①確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成（個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実・学修者本位の教育の推進）
- ②豊かな心の育成（いじめ等への対応、人権教育の推進 ・体験活動・交流活動の充実）
- ③健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成（学校保健、学校給食・食育の充実・生活習慣の確立、学校体育の充実・高度化）
- ④グローバル社会における人材育成（外国語教育の充実）
- ⑤イノベーションを担う人材育成
- ⑥主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成（子供の意見表明・主権者教育の推進）
- ⑦多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂（特別支援教育の推進・不登校児童生徒への支援の推進）
- ⑧生涯学び、活躍できる環境整備
- ⑨学校・家庭・地域の 連携・協働の推進による地域の教育力の向上（コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の 一体的推進 ・家庭教育支援の充実）
- ⑩地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進
- ⑪教育 DX の推進・デジタル人材の育成（1人1台端末の活用・児童生徒の情報活用能力の育成・校務DXの推進）
- ⑫指導体制・ICT 環境の整備、教育研究基盤の強化
- ⑬経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保
- ⑭NP0 ・企業・地域団体等との連携・協働
- ⑮安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保
- ⑯各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ

2 静岡県教育振興計画(2022～2025 年度)	3 菊川市教育振興基本計画 (2024～2026)
【基本理念】 (1)「有徳の人」の育成 ～誰一人取り残さない教育の実現～ (2)「有徳の人」とは、 ・知性・感性・身体能力など、自らの個性に応じて「才」を磨き、<u>自立を目指す人</u> ・多様な生き方と価値観を認め、<u>自他を大切に</u>しながら「徳」を積む人 ・「才」を生かし「徳」を積み、<u>社会や人のために貢献</u>する「才徳兼備」の人 【令和4年度改訂のポイント】 【(1)静岡県教員育成指標】 ・教職生涯を通じて学び続け、子供一人ひとりの学びを最大限引き出し、<u>主体的な学びを支援する伴走者</u> ・授業力…<u>個別最適な学びや協働的な学びのある授業の実践、ICTの効果的な活用</u> ・生徒指導力…<u>ユニバーサルデザイン</u>の視点の共有 ・組織運営力…コミュニケーション、ファシリテーション コミュニティースクールの活用 等 【基本方向】 【(1)「文・武・芸」三道の鼎立を目指す教育の実現】 ①「知性」・「感性」を高める学びの充実 ②「技芸を磨く美学」の奨励 ③<u>学びを支える魅力ある学校づくりの推進</u> 【(2) 未来を切り開く多様な人材を育む教育の実現】 ①<u>多様性を尊重する教育の実現</u> ②グローバル・ローカル人材の育成 ③高等教育の充実 ④生涯を通じた学びの機会の充実 【(3) 社会総がかりで取り組む教育の実現】 ①社会とともにある開かれた教育行政の推進 ②<u>地域ぐるみの教育の推進</u>	【(1) 基本理念】 豊かな学びで歩み続ける人づくり …自立した人 - 思いやりのある人 - いつまでも学びつづける人 【(2) 基本方針】 1 生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育・保育の推進【幼児教育】 2 <u>「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進【学校教育】</u> 3 市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進【社会教育】 【(3) 2についての重点施策】 施策1 小中一貫教育「学びの庭」構想の推進 ○地域・学校間連携の推進及び学校間の交流の推進 ・学校運営協議会の開催…R 7年6回開催 ・学舎の委員に PTA を入れる。計3名 等 ○豊かな学びを支える環境づくりの推進 施策2 ICT 環境等を生かした魅力ある授業づくり ○魅力ある授業づくりの推進 ○GIGA スクール構想の推進 ・「授業がよくわかる」…R 8強肯定 60% ・「授業でタブレットを使って自分の考えを表現したり、友達と意見交換をしたりした」…R 8強肯定 60% 施策3 思いやりに満ちた学校づくり ○魅力ある学校づくり ○「心の教育」 ○児童生徒の心に寄り添う支援 ・「学校が楽しい」…R 8強肯定 70% 施策4 「一人ひとりが生きる教育」の推進 ○特別支援教育の推進 ○外国人児童生徒への教育支援 ○安全教育の充実 ・「みんなで何かをするのは楽しい」…R 8肯定 97% ・「学校が楽しい」と回答する外国人児童…R 8肯定 97% 施策5 こころざしをもった頼もしい教職員の育成 ○教職員の育成指導 ○教職員の人事及び評価 ○円滑な学校運営の推進 ・学校に信頼することができる先生がいる」…R 8肯定 95% 施策6 学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿化 施策7 安全で安心して教育が受けられる環境づくり 施策8 安全でおいしい給食の安定的な提供

2 小笠東小学校の学校経営

令和6年度の成果と課題から分析する児童の実態

	R 5		R 6 児童（11月）			R6保護者（）はR5		R6教職員		R7目標指数		
項目	4	4+3	4	4+3	目標数値	4	4+3	4	4+3	市（R8）	岳洋学舎	学校
【今日育①】 学校が楽しい。	50.8	89.3	<u>61.9</u>	<u>95.2</u>	<u>90</u>	<u>61.4</u> (32.6)	<u>95.7</u> (92.4)	37.5	100	強肯定70		強肯定65
【今日育②】 みんなで何かをすることは楽しい。	75.4	93.3	75.2	96.7	90	77.8	97.1	43.8	100	肯定97		強肯定80
【教育④】 授業に主体的に取り組んでいる。	31.3	90.3	<u>40</u>	89.5	<u>90</u> （学舎80）	42.7	86.9	6.3	75			強肯定45
【教育③⑥】 授業がよく分かる。	39	90.8	<u>47.6</u>	90	<u>90</u>	38.2	82.6	0	56.3	強肯定60	肯定80	強肯定50
【共育⑦】 学校に信頼できる先生がいる。	63.6	87.2	<u>70.8</u>	<u>94.3</u>	<u>90</u>	61.8	90.8	31.3	87.5	肯定95		強肯定80
【共育⑧】 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる。（5，6年）	14.3	68.6	<u>26</u>	<u>76.6</u>	<u>70</u>	23.4	70.1	0	44.4			強肯定30
【教育⑤】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	31.4	80.4	<u>44</u>	<u>84.7</u>	<u>80</u>	34	85	20	66.7			強肯定50
授業では、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。	57	95.7	40.9	74.5	90			60	66.7			強肯定50
授業中に自分で調べる場で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか。（3～6年）	45.9	94.8	38.7	76.6	90			58.3	83.3	強肯定60		強肯定40
学校で、学級の友達と意見を交換する場で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか。（3～6年）	24.8	69.2	19.7	65	70			16.7	41.7	強肯定60		強肯定40
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか。（3～6年）	18	62.4	16.1	45.3	65			16.7	33.3	強肯定60		強肯定40
【教育⑥】 身ぶり手ぶりで表現することが得意だ。			24.4	62.7	学舎80	19	58	13.3	46.7		肯定80	肯定80
【教育⑥】 わかったことをたくさん書ける。			43.5	<u>85.2</u>	<u>学舎80</u>	32.3	76.6	7.1	71.4		肯定80	肯定80
研修テーマ（学んでみたい、学んでよかった、もっと学びたい）と思う学習がある。			55.1	93.7		44.3	86.1	21.4	78.6			強肯定60
心のチャンピオンを目指して、何度も挑戦したことがある。			51.2	87.6		35.5	75.5	28.6	78.6			強肯定60
重点目標「学ぶ意欲を明日に明後日に将来につなげよう」に取り組んだ。								28.6	78.6			強肯定50

3 令和6年度の取組

学校教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」(岳洋学舎共通目標)

重点目標 「学びを 明日に、明後日に、将来につなげよう」

- (1) 「学ぶ意欲」の継続をめざすPDCA サイクル
 - ア 「学んでみたい」を見つける 1 学期
 - イ 「学んでよかった」を実感する 2 学期
 - ウ 「もっと学びたい」を明日につなぐ 3 学期
- (2) 温かな土壌づくりと徹底した危機管理で安心・安全な学校
 - ア 「思いやり環境」による人権意識の向上
 - イ 危機管理の日常化
- (3) 「失敗と成功から学ぶ心のチャンピオン」をめざす「活動づくり」
 - ア 明日も明後日も将来も学び続ける方法を児童が考える。
 - イ 児童発「ぺこりあいさつ」を東小の伝統にして引き継ぎ進化させる。
- (4) 「学ぶ意欲」の継続と向上をめざす「学びづくり」
 - ア 「学んでみたい、学んでよかった、もっと学びたい」を実感する授業をめざす。
 - イ 本と人に触れる機会を計画的に設定する。
- (5) 地域とともにある学校をめざす「岳洋学舎連携」
 - ア 総合的な学習の時間(チャレンジ)を中心にして地域参画意識を向上する。
 - イ 「学びの庭」を意識した情報発信を続ける。

4 学校経営方針

小笠東小学校の良さ（子供たちが素直で優しい【みんなで何かをするのが楽しい 96.7%、心のチャンピオン見つけ】、教師と子供たちの関係性【信頼できる先生がいる 94.3%】、地域の教育力が高い【地域ボランティア】）を生かしながら、社会から要請される教育活動（持続可能な社会の創り手となる、地域に開かれた教育活動、カリキュラムマネジメント等）を推進するためには、児童、教職員、地域・保護者が信頼関係で結ばれていなければならない。すべての子どもを多角的に見つめ、家庭や地域と連携し、全教職員のチーム力で、よさや可能性を育む学校をつくる。

そして、小笠東小学校に関わる全ての人々が、当事者意識を持ち『わたしの学校』と思えるような学校への愛着、愛校心を育む。令和7年度は学校創立 150 年となる。地域の方に子供たちの姿を披露することを通して、さらに、その思いが生涯にわたって続くことを願う。

学校は楽しい場所である。自分の力を伸ばし、友達と支えあい、高め合う場所である。児童と職員の笑顔あふれる学校にしていきたい。

5 学校教育目標（岳洋学舎教育目標：R2～）

自信をもち 自分の力を発揮する子

6 重点目標

思いをもち 挑戦しよう

これからの社会をつくる子供たちは、社会的変化に対応するだけでなく、自らが変化の先頭に立ち、新たな価値（友達との比較ではない、工夫や創造、結果ではなく過程が大事、自分らしさなど）を生み出すためには、自分の思い（活動のエネルギー）が重要である。

子供たちには、3つの場を中心に自分の思いをもたせ、その思いに向かって「**挑戦する心と態度**」を意識させ学校生活を送り、「**自信（自己肯定感）**」と「**個の力**」を令和7年度も高めていきたい、そこで、令和7年度の重点目標は「**思いをもち 挑戦しよう**」と設定する。

第一段階

○めあて・目標づくり

行動するためのエネルギー、きっかけは「〇〇がやりたい」「〇〇になりたい」という個々の思い。

☆進む方向は、個々の願い。その方向が違う場合は、軌道修正が必要。

第二段階

○過程

まずは挑戦

第三段階

○振り返り

願いが叶う・願いが叶わなかったが挑戦したことに価値がある。＝自信となる。

具体的方策

【研修・学びづくり】

(1) 授業で「子供の自信（自己肯定感）個の力」を育てる

～児童が主体的に取り組み、学びの実感をもつ授業づくり～

授業の主役は子供である。そのために、担任はティーチャーであるより、授業のファシリテーターある。子供の思い、挑戦する心と態度を大切にしていく。

特に、高学年では、「自分たちで学習を進めることができる」までの主体性を育てることを目指す。

- ①「学校の中核は授業」であることを、児童も教師も共有し、授業改善に力点を置く。
「目指す授業像（思いと挑戦）」を追求し「授業が自慢」の学級をつくる。

- ②「聴く・話す力」を基盤に、「他者を意識した聴く力」、「自分の言葉で語る対話力」を育成する。
- ③全ての教員が自らの授業を開き、授業づくりを主体的に実践する。研修の日常化を推進する。
- ④校内研修を軸に、育成すべき資質・能力を明確にした単元構想、教科の見方・考え方を働かせる学習過程を展開する。
- ⑤学びのフィールドを広げ、地域を学び、地域で学ぶことを通して、故郷を愛する思いや願いを持たせる。
- ⑥GIGA スクール構想（一人1 端末）の効果的活用方法を試行し、成果・実践を蓄積する。

【生徒指導・特別支援・人権】

(2) 学年・学級経営で「子供の自信（自己肯定感）個の力」を育てる

～児童が日々安心して生き生きと楽しく生活する学級・学年づくり～

児童の学校での生活基盤は学級である。一人一人にとって安心安全な居場所となる温かな支持的学級風土を醸成する（居場所づくり）。互いに認め合い励まし合う人間関係（絆づくり）の中でこそ「自分の思いを表出し、挑戦する力」が醸成される。

教師の指示がなくても、自分たちの生活を自分たちで創ることができる学級を目指す。

特別支援教育を通して、個に応じた指導・支援ができるようにする。

- ①学級担任から学年部担任（低・中・高）へと意識を変革することにより、業務の協働性と指導の広汎性を生み出す。
- ②全ての児童が安心して安全に生活できる居場所をつくる。
安全；教職員が常に危機管理の視点をもつとともに、児童に規範意識を醸成する。
安心；人権教育・個性伸長支援教育の視点に立ち、子供一人一人を支援する。一人一人の子供と積極的にかかわり「話す」「遊ぶ」など、日常の触れ合いを大切にする。
- ③子供のよさを見取る大人の感性（教師としての専門性）を磨き、大人も子供もよさを認め合う文化をつくる。「宝探しの目」と「認め合える温かなボイスシャワー」を「心のチャンピオン」により視覚化する。
- ④学級の組織、ルールを浸透させ、自分ごととして進んで行動する（周りを見る、自ら動く、周りに声をかける）子供を育てる。
- ⑤総合的な学習の時間(チャレンジ学習)や生活科を軸として、子供たちが、「やりたい」という思いからスタートし、挑戦する中での「育ち」を大切にする。

【活動づくり】

(3) 行事・活動で「子供の自信（自己肯定感）個の力」を育てる

～児童が「自分ごと」としてつくる行事・活動づくり～

児童が、行事や活動に「自分ごと」としての思いを持って取り組むとき、その結果として自信（自己肯定感）と個の力が獲得される。能動的な姿勢とするために、実行委員等子供が前面に出る活動を推進する。

教師は事前指導に力を入れ、実際の場面は子供に任せる心構えを持つ。

- ①行事や活動に向け「めあて」「結果よりも過程を大切に」「学び（成功・失敗）を次に」を教師と児童が共有し、思い（めあて）に向けて、進んで挑戦（準備、練習）することを称揚する。
- ②実行委員会を組織するなど、多くの子供に「代表」を体験させることによって、成功体験を味わい自信（自己肯定感）・存在感を持たせる。
- ③ペア活動により、上学年として意識と自覚を高め、それを態度と行動に表す力を育てる。
- ④小笠東小の伝統である「ペコリあいさつ（R7はプラス1）」を、子供たちが生涯にわたって発揮できよう継承発展させる。保護者、地域へ広げ深める。
- ⑤授業参観会、運動会、ホームページ等を通して、子供の学習の成果や生き生きとした生活をしている姿を紹介するとともに、保護者・地域の学校理解の機会とする。
- ⑥地域のボランティアの方・地域企業の方などを講師に迎えて行う学びを通して、地域との連携を大切に活動を進める。